



つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 1 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 2 月 第 26 号

ひらやましょうがっこう
平山小学校のみなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

みなさんは冬休みをどのように過ごしましたか？ 私は年末の休みの期間(日本とは季節が反対なので「夏休み」)を利用してナミビア北部にある「エプパ(Epupa)」と呼ばれる村へ行ってきました。今日は、そこで見たものや学んだことを紹介したいと思います。

ナミビア北部の村「エプパ (Epupa)」

①どこにあるの？どうやって行くの？

エプパは、ナミビアとアンゴラ(ナミビアの北に隣接している国)の国境近くに位置する村です。首都ウイントフックから車で10時間くらいかかります。さらに、舗装されていない道が長く続くため、余裕をもって移動の計画を立てる必要があります。

私は、コリハス(Khorixas)という町とオプウオ(Opuwo)という町で1泊ずつしながら、3日間かけてエプパに到着しました。



②エプパフォールズ (Epupa Falls)

私が今回エプパへ行きたかった理由の1つは「エプパフォールズ」と呼ばれる滝を見てみたかったからです。私の住んでいるウサコスでは雨がほとんど降らず、川と呼ばれる場所はあっても水はなく、川が流れている光景を一度も見たことがありませんでした。このエプパフォールズは、ナミビアとアンゴラの国境にもなっている「クネネリバー」と呼ばれる川の水によってできている滝で、こんなに雨が少ないナミビアにも、滝が形成されるほどの水量の川が流れているとは、とても興味深いと思いました。



↑ナミビア側のビューポイントから見た景色です。クネネリバーを隔てて奥に見える山はアンゴラの土地です。

③ ヒンバ族の暮らし

エプパや、エプパへ向かう途中で1泊したオプウォなど、このあたりの地域には「ヒンバ族」と呼ばれる民族の村があります。ヒンバ族は、家族や親戚で1つの村を形成しているそうです。エプパへ向かっている間は何もない土地がずっと続いたのですが、道中でポツンと小さな家がある場所をいくつか見ました。これが、1つの親戚で形成された村だったとは、後から知って驚きました。

ヒンバ族の暮らしがとても気になっていたのも、エプパフォールズの近くにあるヒンバ族の村を見学させていただくことになりました。ヒンバ族の方々はオシヘレロ語と呼ばれる言語を話し、英語が通じない場合が多いので、見学する際はガイドさんに頼んで一緒に訪問する必要があります。



↑ ヒンバ族の家 ↑

(木の骨組みの上から土と馬糞を混ぜたもので固める。)

↑ 儀式を行う場所



↑ 女性が体に塗る化粧品を作る様子
(赤土でできた石のような物を削る。)



↑ 化粧品と練り香水
(ブラックペッパーのような良い香りがした。)



↑ 家畜(ヤギなど)を入れる場所
(木で組み立てられた柵)



①



②



③



④

ヒンバ族の人々は、年齢や配偶者の有無(結婚しているかどうか)によって、髪型や身に付ける装飾品が異なるそうです。例えば10代の若い女性は①のような髪型をし、成人すると②のような髪型になります。結婚していない場合は、②の頭の上の飾りは付けられないそうです。男性で結婚していない人は③の角のような髪型をしていて、結婚すると④のように角はなくなるそうです。

私も、ヒンバ族の化粧品を全身に塗り、装飾品を付けてもらいました。

